

連産
協青
議年
会部

温暖化対策へ参加呼びかけ

関東ブロックが賀詞交歓会

(社)全国産業廃棄物連
合会青年部協議会の関
東ブロック賀詞交歓会
が2月12日、高崎ホワイ

ティン(群馬県高崎市)で行われた。1都7県の各協会青年部会役員などが参加。全産連が1年



賀詞交歓会のようす

務理事が「環境保全社会における廃棄物処理業界の展望」を講演。仁井埠務理事は、最近の社会情勢や地球温暖化対策に関する議論に触れながら、産廃処理業の付加価値づくりの処理は減量化から再生利用されるものをつくることにシフトしてきた。今後の付加価値づくりについては、①プロフェッショナルとしてより上流にコミットしていくこと②再生利用、適正処理のトータルパッケージ③再生利用のクレードアップ④再生利用は市場をみながら製造業のセンスに近づいていくこと―も必要ではないか。地球温暖化対策では各国の思惑が異なり、国内でも議論百出の状態だが、わが国の施策の軸になることは間違いなし。関心を持つことは必要」と述べた。

廃棄物処理制度の見直しについては、「今回の報告も規制強化という要素はあるが、産業廃棄物処理業のビジネス環境を考えようとする方向性や懸案だった自社処理に対する踏み込みもみられる」と語った。さらに1月14日の環境省政策会議の場で、改正法案について処理業の更新期間の特例を創設することなどが報告されたことを紹介した。

賀詞交歓会では、仲田陽介関東ブロック長が「今年11月23日に横浜で行われる青年部協議会の全国大会に向けて、『CO₂・マイナスプロジェクト』に取り組んでいきたい」とあいさつ。来賓の青年部協議会・加藤宣行会長は「我々の世代は、創業者の信念を継承、磨きをかけながら『第二創業』として業界を立ち上げる気持ちが重要。全国大会に向けて、力を貸してもらいたい」と語り、プロジェクトへの参加を呼びかけた。